

令和元年日出町議会 9 月定例会

令和元年
研修報告書

日出町議会 議会報編集特別委員会

日出町議会 議会報編集特別委員会研修報告書

- 1 期 間 令和元年8月8日(木) ～ 9日(金)
- 2 研修地 京都府京都市
- 3 研修事項 地方議会総合研究所主催 議会広報クリニック
- 4 参加者
日出町議会 議会報編集特別委員会
委員長 池田 淳子
副委員長 土田 亮治
委員 上野 満
委員 阿部 真二
委員 豊岡 健太
委員 河野 美華
随 行 田北 友恵 (議会事務局 主任)

1 説明者 エディター・広報アナリスト 吉村 潔

2 研修内容

昨年4月の改選後、新人議員2名が加わり、紙面の構成も大きく変更し、議会だよりの編集を行っています。

昨年は、毎年コンクールで優秀な成績を収めている先進地への研修でしたが、今年は、基本的な技術を学ぶため、「ひじ議会だよりのNo.116号を前もって送付し、当日のクリニックを受けました。

当日は、各地の8つの議会から26名が出席しており、まず、企画・編集のプロセスや具体的なアプローチ、数字表記の基本などの事例を交えながらの説明がありました。

その後、各議会から提出された議会だよりのクリニックに入りましたが、日出町は最初の講評となりました。

No.116号の表紙は、町内各幼稚園の入園式をテーマにし、それぞれの委員が撮影したものをレイアウトしたものです。「全ての写真が被ることなく、様々な表情があつてとても良い」と思いがけず褒めていただきました。

当初予算のページは、従来のグラフは掲載せず、写真とイラストを使い、主な事業を抜粋して掲載しています。この点については、「通常、町の広報と同じに見られがちのところ、写真を使うことにより分かりやすいが、議会が主語になる文言にすると良い」とのことでした。また、議会の視点で予算の評価を行うことも必要であるとの指摘をいただきました。

さらには、事業評価のページは予算の次のページに持ってくると、関連性がわかるのでは、とのことでした。

一般質問のページでは、最初の「問」と「答」は、キリのいいところで改行をすること、また、名前にはルビを付けることも指摘されました。

「町民の声」は、本人に原稿を書いてもらうのではなく、議員が取材をしてから文章にすると尚良いとのことでした。



クリニックを受けた No.116

3 所 感

「読んでもらえる議会だより」にするため、優秀な議会広報紙を参考にしながら紙面改革に取り組んできました。

試行錯誤での紙面改革ではありますが、今回、基本的な技術を学ぶことにより、再確認出来たところもありますし、一期生にとっては新たな知識となったことと思います。

全体的には好評をいただきましたが、指摘を受けた箇所には、他自治体の議会だよりのサンプルを付けてくれており、今後の参考にしていきたいと思います。

コンクールへの出展も勧めてもらえ、委員一同、大きな自信に繋がりました。

今回、研修で学んだ成果が出るよう、また、議会だよりの果たす役割を理解しながら、次号の編集に取り組みたいです。



研修の様子